

シンフォニー 森の交響曲

□登場人物

森野美樹(心の中の美樹 1)

カノン・森野響子

ハック

シクハック

あけび
通草小五郎

エレジー

イライラ

ドキドキ

オドオド

ぬらりひょん

化け物達

心の中の美樹 2・3

現実の美樹

★第一楽章 「囀り」 アンダンテ・コモド(快適なテンポで)

舞台は森野美樹の部屋。

そこに現れる一人の少女(森野美樹)。

美樹は下手袖近くに置かれている自分の机に座る。

美樹の周りを3人の少女が囲んでいる。

この3人は美樹の心の声である。

美樹は手に大きな封筒を持っている。

封筒を破いて中に入っているものを取り出す。

中からは分厚いノートが現れた。

その表紙に書かれている題名を読む。

美樹1 「『森の交響曲』」

美樹2 「七つ森がレジャーランドになる話が持ち上がった時、ママがそれに反対して創ろうとした音楽」

美樹3 「なんでママ、これをわざわざ私に送ってきたわけ」

美樹がノートを開く。

美樹1 「これ、音楽じゃない」

美樹がページをばらばらめくる。

美樹2 「台詞がぎっしり書かれてる」

美樹3 「戯曲みたいだね」

美樹がノートの一ページ目を見る。

美樹1 「第一楽章」

美樹2 「囀り」

美樹3 「アンダンテ・コモド」

美樹1 「(ト書きを読んで)舞台はミゼーレの森」

美樹2 「(ト書きを読んで)緑豊かな美しい森である」

美樹3 「(ト書きを読んで)一人の少年が舞台上に現れる」

美樹1 「(ト書きを読んで)少年の名前はカノン」

舞台上にカノンが現れる。

美樹達はカノンを眺める。

美樹1「(ノートに書かれている絵を指差して)カノンってこの絵の少年だよな」

美樹2「そうじゃない。絵の下にカノンって書いてある」

美樹3「ねっ、カノンの顔、ママに似てない」

美樹1「似てるかも」

美樹がページをめくる。

カノンが指揮棒を振る。

鳥の囀りが響く。

鳥たちの生み出す響きは重なり合いハーモニーを奏でる。

カノン できた。第一楽章が完成した。

美樹1「(ト書きを読んで)そこに、森の妖精ハックが現れる」

ハックが登場する。

美樹2「ハック？パックの間違いじゃない」

美樹がページをめくっていく。

美樹3「ハックでいいみたいだね」

美樹1「ハックも絵で紹介されてる」

美樹2「(ページをめくって)この後出てくる登場人物も、みんな絵で紹介されてるよ」

美樹3「これって、登場人物をイメージしやすいように？」

美樹が続きを読み始める。

ハック カノン。まだ、第一楽章かい。

カノン 僕は、音と向かい合うことでしか作曲できない。第一楽章を創るために、たくさんの鳥の囀りと向かい合い、対話した。それで、やっとここまでたどり着いたんだ。

ハック (ふっ)芸術家のいうことは難しくっていけねえ。

その時、ハックが耳を澄ます。

ハック ミゼーレ様。何です？

ハック [ミゼーレ] 「森が危ない」

ハック 森が危ない？ どういうことです。ミゼーレ様！ミゼーレ様！

沈黙

ハック だめだ、声が聞こえなくなった。(ハッとして) どうしたんだ。森が、いつもの森と違う。

カノンも森の異変に気がつく。

カノンが指揮棒を振る。

何の音も響いてこない。

再び指揮棒を振る。

何の音も響いてこない。

カノン 囀りが聞こえてこない。

巨大な虫眼鏡を持った、探偵・^{あけび}通草小五郎が現れる。

通草 事件だ、事件の匂いがする。事件の匂いのするところに、名探偵・^{あけび}通草小五郎あり。カノン、いったいどうしたんだ。

カノン 鳥の囀りが聞こえない。

通草 なんだと。

カノン 囀りだけじゃない。鳥の姿も見えない。森中に溢れていた鳥の姿が。

ハック (耳を澄ます) ミゼーレ様。何ですか。

ハック [ミゼーレ] 「囀りが盗まれた」

ハック 盗まれたですって？

ハック [ミゼーレ] 「森が危ない」

ハック どういうことです、ミゼーレ様。ミゼーレ様。

沈黙。

ハック また、声が聞こえなくなった。何かあったんだ、ミゼーレ様に。

カノン 誰が囀りを盗んだの？ 何のために？ どんな方法で？

ハック わからない。

劇の登場人物達が静止する。

美樹・心の中の美樹が宙を眺めて、ママとの出来事を思い出す。

美樹1「森が危ない…」

美樹2「森って、七つ森のこと？」

美樹3「ママのふるさとの森」

美樹達「七つ森」

美樹1「七つ森がレジャーランドになる話が持ち上がった時」

美樹2「ママは『森の交響曲』^{シンフォニー}を作曲することを決めた」

美樹3「七つ森を守るために」

美樹1「ピアノが弾けて、作曲ができて、女優として映画にも出て」

美樹2「何でもできるママ」

美樹3「私、ママみたいになりたかった」

美樹1「ママは毎日七つ森に出かけた」

美樹2「ママは七つ森ばかり見て、私を見てくれなかった」

美樹1「あの日、七つ森で私はママに聞いた」

美樹3「ママ、七つ森と私のどっちが好き？」

美樹2「(母)どっちも好きよ」

美樹3「どっちかに決めて」

美樹2「(母)どうして比べなくちゃいけないの」

美樹3「私じゃないのね。七つ森のほうが好きなのね」

美樹2「(母)美樹、いい加減にして」

美樹3「七つ森なんて嫌い。七つ森なんてなくなっちゃえばいいの」(美樹3がパントマイムで楽譜を破る動きをする)

美樹1「私はママが創っていた『森の交響曲』^{シンフォニー}の楽譜を破いた」

美樹2「(母)美樹！」(そう言って美樹3を叩く)

美樹1「ママは私を叩いた」

美樹3「嫌い！ママなんか大嫌い！(そう言って泣く)」

美樹1「私がママに言った最後の言葉」

美樹3「嫌い！ママなんか大嫌い！」

美樹1「あの時から、ママと一度も口をきいてない」

美樹が戯曲を読み始める。

登場人物達が動き出す。

シクハックが現れる。

シクハック　ハックの兄貴、こんなところにいたのか。ずいぶん探したよ。

ハック　うるさい奴が来やがった。

シクハック　うるさい奴はないだろう。おいらはかわいいハックの弟分。シクハック。

ハック 俺につきまとうのはやめてくれ。俺はお前が嫌いなんだ。

シクハック …

ハック いや、嫌いじゃない。

シクハック …(期待してハックを見つめる)

ハック 大嫌いだ。

シクハック (うなだれる)

ハック シクハック、俺は今忙しいんだ。カノン、俺は向こうで鳥を捜してくる。

ハック退場。

シクハック ハックの兄貴！(途中まで追いかけて) やっぱり、ハックの兄貴はかつこ
いいや。ねえカノン、ハックの兄貴が捜すって言っていた「とり」ってなんだい。

カノン 「とり」は、…どうしたんだろう、「とり」がどんなものだったか思い出せない。

シクハック 通草先生は「とり」が説明できる？

通草 (笑って)私を誰だと思っているんだ。私は名探偵・通草小五郎。名探偵である私の脳細胞は、そんじょそこらの脳細胞とはわけが違う。

シクハック どう違うの？

通草 (笑って)私の脳細胞は天然果汁100パーセント！手がかりさえあればいとも簡単に「とり」を再構築してみせるわい。

カノン 手がかり？僕は、曲を作る前にそのイメージを詩に表している。これがその詩。
この詩をイメージして僕は第一楽章を創り上げた。

通草 どれどれ。「夜明け前の森。沈黙という空間。沈黙の中でひしめき合う音達」。
なるほど、この沈黙の中でひしめき合う音の本体が「とり」というわけだ。「沈黙
の中でひしめき合う」、これは肉体と肉体のぶつかり合いということだ。肉体と肉
体がぶつかり合って音を生み出す「とり」といえば、それは…相撲とりだ。詩の続
きを読もう。(詩を読んで)なるほど、これは朝の光の中、たくさんの相撲とりが小
枝にとまっているのをイメージしたんだ。

カノン 違う！僕が描いた音楽はそんな世界じゃない！

ハックが登場。

ハック 「とり」を捜しているうちに。「とり」がなんだかわからなくなっちまった。

カノン ハックも…

ハック (ミゼーレの声を聞くポーズ)何です、ミゼーレ様。

ハック [ミゼーレ] 「森が危ない」

ハック ミゼーレ様、どうしたらいいんです。

ハック [ミゼーレ] 「美樹を連れて来るの」

ハック 美樹？美樹って誰です？

ハック [ミゼーレ] 「美樹は人間。正確に言えば、人間の意識といったほうがいい」

ハック どういうことです。

ハック [ミゼーレ] 「美樹の心の中に棲んでいる美樹をここに連れて来るの」

ハック ミゼーレ様。ハックは人間のことを信用することができません。

ハック [ミゼーレ] 「ハック。この森を救えるのは美樹しかいない」

ハック わかりました。ミゼーレ様、どうしたらいいんですか。

ハック [ミゼーレ] 「ハック、手を伸ばすの。空間の裂け目に向かって。そうすれば、
向こう側から、美樹がその手を握ってくる」

美樹2「(ト書きを読んで)ハックが手を伸ばす」

ハックが手を伸ばす。

そして、その形で静止。

美樹1「美樹って」

心の中の美樹達は互いを見つめ合う。

美樹達「(自分をさして)私？」

美樹2「心の中の私がこの世界に行くっていうこと？」

美樹がページをめくる。

美樹3「(ト書きを読んで)ハックの手を、美樹の心の中の美樹が握る」

美樹1「どうする？」

美樹2・3「…」

美樹1「握る？」

美樹2・3「(うん)」

美樹1「誰が？」

心の中の美樹2・3が美樹1を見る。

美樹1「私？」

美樹 2 「とにかく握ってみたら、ハックの手」

美樹 1 がハックの手を握る。

ハック 感じる。誰かが俺の手を握った。

ハック [ミゼーレ] 「ハック。あなたの手を握った相手を、この世界に引き込むの」

美樹 2 「(ト書きを読んで)ハックが手を思い切り引く」

美樹 3 「(ト書きを読んで)美樹が突然、森の中に出現する」

美樹 2 「(ト書きを読んで)森の住人はびっくりする」

ト書きに描かれていることを心の中の美樹 1 と森の住人が演じる。

美樹 2 「(ねっ)このイラスト見て。森の住人達はびっくりした顔で描かれているのに、私はどこにも描かれていない」

美樹 3 「戯曲の中の私は、自分自身で想像しろってこと？」

美樹は戯曲を読み進める。

心の中の美樹 2・3は舞台から去る。

美樹 ここは？

ハック ここはミゼーレの森。

美樹 あなた方は？

ハック 俺はハック。

シクハック おいらはシクハック。

通草 私は名探偵通草小五郎。天然果汁百パーセントの脳味噌を持っている。

カノン 僕はカノン。

ハック あんたが美樹かい？

美樹 はい。

ハック ミゼーレ様が「美樹がこの森を救うことができる」と伝えてきた。

美樹 ミゼーレ様って誰。

ハック この森を創られたお方だ。

美樹 何で私が、この森を救えるの。

ハック わからない。

カノン 急がないと。作曲しようとしている自然の素材が失われたら、作曲することは不可能だ。

ハック カノン、第二楽章の素材は何だい。

カノン 風。風の音は聞こえてくる。早速作曲を始めないと。

カノンが歩き出す。
美樹はその後をついていく。

ハック さて、俺も行かないと。
シクハック 待って、おいらも連れてって。
ハック あばよ、シクハック。

ハックが華麗に去る。

シクハック ハックの兄貴。待ってくれ。

シクハックはハックを追いかける。
シクハックは舞台隅で絵を描いているエレジーに気づく。

シクハック 君、誰？
エレジー 名前？そんなもの…忘れた。
シクハック 記憶からなくなったのかい。
エレジー ええ。
シクハック それじゃ君も「とり」っていうものみたいに消えちゃうの。
エレジー (笑う)私は消えているのと同じ。
シクハック おいら、君のこと何て呼べばいいかな。
エレジー エレジーとでも呼べば。
シクハック エレジー。君は何を描いているんだい。
エレジー 絶望。
シクハック 絶望？おいらは、希望があふれている絵が好きだな。
エレジー (笑って)希望…希望ね。
シクハック いけない、ハックの兄貴を追いかけないと。ハックの兄貴。

シクハック退場
エレジーも舞台を去る。
心の中の美樹2・3が現れる。

★第二楽章 「風」スケルツォ・コン・モート（動きをもって速く）

美樹2「森の交響曲」
シンフォニー

美樹 3 「第二楽章」

美樹 2 「風」

美樹 3 「スケルツォ・コン・モート」

心の中の美樹 2・3は舞台から去る。

カノンと美樹が現れる。

カノンが指揮棒を振る

風の音が聞こえてくる。

風の音を聞きながら、カノンが作曲を進めていく。

突然、風の音がなくなる。

カノン 西風の音が…消えた。

美樹 西風の音が？

カノン 風の音も森から消えようとしている。

そこに森の木の精イライラ、ドキドキ、オドオドが飛び込んでくる。

ドキドキ 大変、大変よ。

美樹 どうしたの。

ドキドキ 向こうで、向こうで。どきどき、どきどき。

イライラ おい、ドキドキ。もっと落ち着いて話せよ。

ドキドキ イライラ、これが落ち着いていられる。どきどきして心臓が飛び出ちやいそう。

オドオド 怖いよ。怖いよ。

美樹 向こうで、何があったの。

ドキドキ 向こうで、向こうで。どきどき、どきどき。

オドオド おどおどおどおど、おどおどおどおど。

イライラ おい、ドキドキにオドオド。ちっとも話が進まないじゃないか。いらいらいらいら、いらいらいらいら。

ドキドキ イライラ。そんなにいらいらしないであなたが話してよ。

イライラ 俺が？ よーし、わかった。(大きく息をして) 向こうで、西風が倒れているんだ。(間) よーし、言えたぞ。

みんな拍手する。一テンポ置いて。

美樹・カノン えー。

カノン イライラ、僕たちをその場所に案内してくれ。

イライラ ついといで。

みんな、イライラの後について駆けていく

しばらくしてイライラ達が舞台に現れる。

カノン 西風はどこ？

イライラ おかしいな、確かにここに倒れていたんだ。

颯爽と通草登場。

通草 事件のあるところに通草あり。いったい何が起こったのかな。

イライラ 西風がここに倒れていたんだ。

通草 それで西風はどこにいるんだ。

イライラ それが、いないんだ。

通草 いないだと。お前達、私をからかっているんじゃないだろうな。

イライラ いらいらするな。俺達はからかってなんかいない。

カノン 通草先生、西風に何か起こったことは間違いない。

通草 なぜそう断言できる。

カノン ついさっき、西風の音が消えた。

通草 なんだと。西風は音とともに消えたということか。確かにこいつは事件だ。第一発見者は誰だ？

イライラ 俺達3人さ。

通草 そうか、それでは犯人は、（オドオドを指さして）お前だ。

オドオド おどおど、おどおど、なんで僕が…

通草 第一発見者の中でお前だけ不自然におどおどしている。それはお前が犯人だからだ。

オドオド そんな…ひどい、ひどいよ。

ドキドキ どきどきさせないで。オドオドは私達とずっと一緒にいたのよ。

通草 こいつをかばうところを見ると、お前、共犯だな。

ドキドキ どきどき、どきどき、どうして私を疑うの。

通草 人を見たら犯人と思え、それが私の哲学だ。

イライラ 俺達は人じゃない。木の精だ。

通草 気のせいだと、何が気のせいだ、お前達はここに存在している。

イライラ 気のせいじゃなくて、木の精だ。いらいらするな。

通草 つべこべいうな。犯人はお前達だ。

イライラ 俺達には動機がない。

通草 動機がないだと。見ろこいつを（ドキドキをさして）。ひどい動悸だ。それにこいつ（オドオドをさして）こいつは動悸の上に息切れた。

イライラ 俺達は犯人じゃない。

通草 それじゃ、アリババを言ってみろ。オドオド、さあ、アリババをいうんだ。

オドオド アリババといえば、四十人の盗賊。

通草 お前何を言っているんだ。怪しい。ますます怪しい。

ドキドキ （恐る恐る）通草先生。アリババって何ですか。

通草 アリババとは不在証明。要するに犯行時間に犯行現場、つまりここにいなかったということの証明だ。

美樹 通草先生。それは、アリバイ。

通草 ふふふ、そうとも言うな。

美樹 犯行時間は西風の音が消えたときだから…10分前。その時ここにいなかったことを証明すればいいのよ。

ドキドキ ここにいなかったことを証明すればいいのね。

カノン そうさ。

ドキドキ だめだめだめだめ、だめよ。

カノン どうして。

ドキドキ どきどきどきどき、それは、それは…

カノン どうしてだめなの？

ドキドキ だって私達、ここにいたんだもん。

カノンと美樹はその言葉にびっくりする。

イライラ 俺達、西風が声を盗まれる現場を見ていたんだ。

ドキドキ 西風は何者かに捕まっていたの。

通草 ほらみたことか、やはり犯人はお前達だ。

イライラ 違う！

通草 では、どうして助けてやらなかった。

オドオド 怖くて怖くてからだが動かなかったんだ。

ドキドキ 本当に本当に怖かったの。

通草 おい、オドオド、ここから犯人の姿が見えるな。

オドオド それが…

通草 それがどうした。

オドオド 僕は怖くて、怖くて、目を瞑っていたんだ。

通草 なんだと。ドキドキ、お前は。

ドキドキ ごめんなさい。私も目を瞑っていたの。

イライラ いらいらするなあ。

ドキドキ ごめんなさい。

イライラ いや、そうじゃないんだ。実は俺も目を瞑っていたんだ。だから、俺は自分自身の不甲斐なさにならいらするんだ。

通草 お前達は犯人の姿を見なかったのか。

オドオド おどおどおどおどと、目を開けたら、西風がそこに倒れてた。

通草 馬鹿が、これじゃあ手掛かりがないのと同じだ。

美樹 通草先生。

通草 なんだ。

美樹 疑いは晴れたのね。

通草 晴れたとは言っていない。

美樹 帰ってもらっていいのね。

通草 今はな。

ドキドキ どきどきどきどき、家に家に帰れるのね。

3人が舞台を去る。

通草 あと少しで犯人にたどり着けたのに。いらいらするな。

カノン 早く第二楽章を完成させないと。

カノンが指揮棒を振って、風の音を響かせる。

カノン なんて素敵な響きなんだろう。この音が失われるかもしれないと思うと、いとおしさが、切なさがこみ上げてくる。

カノンは楽譜に音符を次々と書き込んでいく。

カノン できた。第二楽章が完成した。

ハックが登場。

ハック カノン、やっと半分までたどり着いたようだな。（ハックがはつとする、ミゼーレの声を感じたのだ）ミゼーレ様。何でしょう。

ハック [ミゼーレ] 「トーマに気をつけて。森の音を盗んでいるのは、トーマ」

ハック ミゼーレ様、そいつはどこにいるんです。

ハック [ミゼーレ] 「トーマは神出鬼没で変幻自在」

ハック ミゼーレ様！ミゼーレ様！

沈黙

ハック また、声が聞こえなくなった。

カノンが何かに気づく。

カノンが指揮棒を振って、風の音を響かせようとする。

何も響いてこない。

更にもう一度。

何も響いてこない。

カノン 風の音が、すべての風の音が…消えてる。

ハック 盗まれたんだ。トーマに…

美樹 トーマって、何者なの？

シクハックが登場。

シクハック ハックの兄貴。

ハック また、うるさい奴の登場だ。

シクハック そう邪魔者扱いしないでくれよ。

ハック いいか俺はお前が大嫌いなんだ。シクハック、さよならだ。俺は、この森のどこかに風が残ってないか捜してくるぜ。

ハック退場。

シクハック 待って、待ってくれよ、ハックの兄貴。

途中まで追いかけて立ち止まる。

シクハック ねえ、カノン。ハックの兄貴が捜すって言っていた「かぜ」ってなんだい。

カノン 「かぜ」、それは…

カノンが頭を抱える。

美樹 どうしたの、カノン。

カノン だめだ、「かぜ」がどんなものだったか思い出せない。「とり」の時と同じだ。

美樹 カノン、本当に風がどんなものか思い出せないの？

カノン 美樹、君は覚えているの？

美樹 (うなづく)

カノン なぜ、君は。…そうか、そういうことか。

美樹 そういうことって、どういうこと。

カノン 僕たちは、森の音が消えるとその記憶まで失ってしまう。でも、美樹、君は違う。君は向こう側の世界からやってきた。だから、僕たちと違って記憶が失われな
いんだ。失われゆく森のことを記憶に残せるのは、美樹、君だけなんだ。

美樹 それがどうして森を救うことになるの？

カノン わからない。

通草 『森の交響曲』^{シンフォニー}の第一楽章と第二楽章の素材となった音が盗まれた。犯人は君の
『森の交響曲』^{シンフォニー}に登場する音を次から次へと盗んでいる。現在第二楽章までの音が
盗まれた。ふふふ、私の脳細胞が笑ってる。天然果汁100パーセントの脳細胞が。
ずばり、次に犯人が狙う音は第三楽章にある。

シクハック そんなことおいらにでもわかる。

通草 いちいちうるさい。カノン、第三楽章で使われる音は何だ？

カノン 第三楽章は闇の森に響く音で構成される。

通草 次に犯人が狙うのはそいつだ。

美樹 どうするの。カノン。

カノン 闇の森に行く。

ハック登場。

ハック カノン、闇の森はぬらりひょん率いる化け物達の栖だ。化け物でないことがわ
かったら命はないぞ。

カノン ハック、僕の『森の交響曲』^{シンフォニー}の第三楽章は闇の森に響く音を扱う予定なんだ。

ハック …

カノン どうしたらいい。

ハック 月下美人の花粉をからだ中に塗るんだ。そいつがお前を守ってくれる。

美樹 私も行く。

通草 私も行こう。

ハック 勝手にしな。ただし、命の保証はない。シクハック、俺は一足先に闇の森に行
く。こいつらに月下美人の花粉を用意してやれ。

ハック退場。

シクハック ハックの兄貴。

カノン さあ、行こう、闇の森へ。シクハック、月下美人の花粉を頼んだぞ。

シクハック わかった。

美樹、カノン、通草の3人が退場

シクハックはエレジーに気がつく。

シクハック エレジー。「かぜ」がこの森からなくなったよ。

エレジー それが？

シクハック 君は「かぜ」がなくなっても平気なのかい。

エレジー あなたは？

シクハック 悲しいよ。

エレジー 「かぜ」がどんなものか覚えているの？

シクハック 覚えていない。だからよけい悲しいんだ。

エレジー 誰にでも、なくなっしてほしい記憶というものがある。「かぜ」、それはきっとなくなっしてほしい記憶だったの。だから消えたの。

シクハック そうかなあ。

エレジー 消したいもの、でも消せないもの。私の中のその記憶が消せたらどんなに幸せか。

シクハック どうして君はそんな悲しいことを言うんだい。

エレジー 私は絶望を見つめて絶望を描く画家。それだけ。(笑って)さようなら、シクハック。

エレジーが帰っていく。

絵が落ちている。

エレジーが描いていた絵だ。

シクハックがそれを拾う。

シクハック エレジーの描いていた絵。(それを見て)どうしてこの絵が絶望なんだ。いけない、ハックの兄貴に頼まれた月下美人の花粉を用意しなくちゃ。

シクハック退場。

心の中の美樹2・3が現れる。

美樹2「エレジーの絵ってどんな絵」

美樹 3 「ママ、私に何を伝えたいの」

美樹が戯曲を再び読み始める。

★第三楽章 「闇」 ナハトムジーク(夜の音楽)

美樹 2 「森の交響曲」
シンフォニー

美樹 3 「第三楽章」

美樹 2 「闇」

美樹 3 「ナハトムジーク」

心の中の美樹 2・3 が舞台から去る。

カノンが舞台上に現れる。

カノンが指揮棒を振ると雷鳴が響く。

カノンは何度か指揮棒を振って雷鳴を響かせる。

カノン 第三楽章の音、まだ盗まれてない。

ハックが現れる。

ハック 今日には化け物達のお祭りだ。さあ、祭りが始まるぞ。何気なく化け物達の中に入るんだ。

化け物達が現れる。

ハック 今だ。心配するな、月下美人の花粉が守ってくれる。

カノン、美樹、通草の3人が化け物達の中に入る。

ぬらりひょんが現れ、舞台中央に座る。

化け物達は「ぬらりひょん様、ぬらりひょん様」と叫ぶ。

ぬらりひょん さあ、最初の出し物は何だ。

化け物 ぬらりひょん様。まだ準備ができておりません。

ぬらりひょん それでは飛び入りで誰かに場をつないでもらおうか。そこにいるでっかい虫眼鏡を持ったお前、何かやってくれ。

通草 わ、私ですか。

ぬらりひょん そうだ。出し物を見せてくれ。

化け物達はやんややんやとはやしたてる。

カノン なんとかごまかすんだ。

通草 どうやって。

美樹 歌でも歌ったら。

通草 歌か…

通草が舞台中央に。

ぬらりひょん お前の出し物は何だ。

通草 うううう…歌を歌います。

ぬらりひょん 何を歌う。

通草 …ゲゲゲゲゲゲの鬼太郎のお、お、親父の歌を歌います。

ぬらりひょん ゲゲゲゲゲゲの鬼太郎の親父の歌だと。面白い、みんな音頭をとれ。

化け物達が音頭をとる。

ぬらりひょんの「はい」という掛け声と同時に通草が歌い出す。

通草 ♪目玉の学校は川の中♪（そこで歌うのをやめる）

長い沈黙。

ぬらりひょん （突然笑い出す）

それと同時に化け物達も笑い出す。

ぬらりひょん 面白い。戻ってよし。次は、お前とお前（美樹とカノンが指名される）

お前ら何かやってくれ。

美樹 どうしよう。

カノン 適当にごまかすしかない。大丈夫。月下美人の花粉が僕らを守ってくれる。

ぬらりひょん 何をぶつぶつ言ってるんだ。

カノン 何でもありません。

その時、雨が降ってくる。

カノン 雨だ。

美樹 花粉が流れちゃう。

ぬらりひょん (ぬらりひょんは異様な匂いを感じる) 何だこの匂いは。こいつは人間の匂いじゃないか。いったいどこから。(匂いのもとを探って美樹に行き着く) お前か。

美樹 ばれちゃった。

カノン 美樹、逃げるんだ。

ぬらりひょん (化け物達に) 捕まえろ。

化け物達が襲いかかる。

美樹とカノンが捕まえられる。

ぬらりひょん さて人間とその仲間、どのように料理してくれようか。

美樹 やめて、私達が何をしたって言うの。

ぬらりひょん 俺は闇が好きなんだ。明り一つない真っ暗闇という闇が。ところがどうだ、人間は電気とやらを使って、手当たり次第夜を明るくしてまわる。この闇の森にもその明りが届く始末。森から闇を奪うもの、それが人間だ。だから俺は人間が大嫌いなんだ。

美樹 ぬらりひょん。そんな闇の森を魔の手が破壊しようとしているの。

ぬらりひょん 化け物を襲う魔の手などちゃんちゃらおかしいわ。さあ、野郎ども、血祭りの始まりだ。

化け物達が騒ぎまくる。通草もその中で騒いでいる。

ぬらりひょんはそれを舞台の一番後ろから見守っている。

稲妻、雷鳴。

カノン これが夜の響きだ。この恐ろしさを描かずに「森の^{シンフォニー}交響曲 第三楽章」は完成しない。

美樹 カノン、怖くないの？

カノン 怖いもんか。これは音楽だ、魂を震わす音楽だ。

稲妻、雷鳴。

カノンが楽譜に音を書き込んでいく。

カノン できた、第三楽章が完成した。

稲光。雷鳴。
闇の中からぬらりひよんの呻き声。
更に化け物達の呻き声が聞こえてくる。
稲光。しかし、その後に音はしない。
再び稲光。
しかし、やはり音はしない。
音のない雷の中、化け物達は消えていく。

通草 トーマ、なんて大胆なやつだ、私たちの目の前で犯行を行うなんて。カノン、『森の交響曲』^{シンフォニー}はこれからどうなるんだ。

カノン 第四楽章に進んでいく。

美樹 こんな静かな森にどんな音が残っているの？

カノン 第四楽章の音、それは森に響く言葉。

美樹 言葉？

カノン 僕が描こうとしている森は原始の森じゃない。『森の交響曲』^{シンフォニー}に描かれている森は、僕たちの言葉が、森の中で様々な音と交響し合う森なんだ。

美樹 私達の言葉も森の音…

カノン (うなづく)

通草 トーマが最後に狙うのは私達か。

カノン こうしちやいられない。早く第四楽章を完成させないと。

カノンと美樹が退場。
シクハックが現れる。
シクハックがエレジーに気がつく。

シクハック エレジー。君もここに来てたんだ。

エレジー …

シクハック これ、君が描いていた絵。君、落としてったろ。

エレジー …

シクハック 素敵な絵だね。ここに描かれている女の子、誰だい？

エレジー …

シクハックが絵をエレジーに渡す。

シクハック どうしてその絵が絶望なんだい。おいら、その絵を見てると、とっても幸せな気分になるよ。

エレジー シクハック、私の記憶に触れないで。

エレジーが帰りかけて振り返る。

エレジー ありがとう、シクハック。絶望を届けてくれて。

エレジー退場。

シクハック いけない。ハックの兄貴を追いかけないと。

シクハック退場。

心の中の美樹 2・3 が現れる。

美樹 2 「森ってこの後どうなるの？」

美樹 3 「トーマって何者？」

美樹 2 「第四楽章で全ての謎が解けるのかな？」

美樹 3 「とにかく、続きを読もう」

★第四楽章 「言霊」 アダージョ・コン・ドロレー（遅く・苦悩をもって）

美樹 2 「(ト書きを読んで)舞台上にカノン、通草先生、そして美樹が現れる」

カノン達が現れる。

美樹 3 「(ト書きを読んで)カノンが指揮棒を振る」

美樹 2 「(ト書きを読んで)森の中に次の言葉が響く」

美樹 3 「森の交響曲」

美樹 2 「第四楽章」

美樹 3 「言霊」

美樹 2 「アダージョ・コン・ドロレー」

心の中の美樹 2・3 が舞台から去る。

ハックが現れる。

ハック 大変だ。

カノン ハック、どうしたの？